

平成 27 年 2 月 16 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

「GL、CLMV へ積極的に拡大」 ～ファイナンス事業子会社プレスリリースより～

当社グループで、東南アジアにおいてオートバイファイナンスを展開する Group Lease PCL(以下 GL)は、2月 12 日に、昨年第4四半期に、運用ベースで過去最高益を記録したことの報告、そして今後のターゲット市場・CLMV への拡大方針についてウェブサイト上にリリースいたしましたので、お知らせいたします。

以下 GL ニュースリリースより(訳文)

GL、CLMV へ積極的に拡大

2015 年 2 月 12 日

2014 年最終四半期での劇的な財政好転のニュースの後、SET 上場のオートバイリース会社 Group Lease Public Company Limited(以下 GL)は、タイの近隣諸国である CLMV(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)の急成長中で収益性の高いオートバイリース市場の支配権を握るために、積極的な拡大計画を推し進めています。

GL 会長兼最高経営責任者である此下益司氏は、「我々はすでに堅牢で大規模なビジネスインフラ(*1)をカンボジアで展開し、2014 年半ば以降は損益分岐点を超えています。現状でも利益は順調に伸びていますが、これからの数か月、数年でより大幅に増益します」と述べています。

カンボジアでの事業が上向きの勢いを増していることで、GL では、ラオスで同様のリースおよびマイクロファイナンス業に乗り出す準備が整いました。「必要な準備はすべて整い、設備も用意が終わり、あとはビジネスを始めるだけです。間もなく発行されると思われる、ラオス中央銀行からの許可証を待つのみです」と此下氏は語りました。

ビジネスの成長が著しいミャンマーは今、現地政府の政治経済改革のまっただ中にあります。GL は、来年の事業開始を計画しており、本格的にミャンマーのマーケットを調査中です。ベトナムでは、類似するリースやファイナンス関連事業を行う会社の買収を検討する交渉が進行しています。此下氏は、「(比較的成熟した)タイ市場での成長を続けながら、我々は CLMV への事業拡大戦略を明確に打ち立てています」と語ります。

タイ近隣諸国の市場は比較的未熟です。GL が 2014 年最終四半期に示した劇的な財政好転が、この市場への推進力となります。2014 年最年初からの 9 ヶ月で連結 2,150 万バーツだった収益は、最終四半期で急激な成長を見せ、9,376 万バーツまで急上昇しました(*2)。前年比で見ると、2014 年第4四半期の利益は 2013 年第4四半期の 1,319 万バーツという数字から、611%急増という素晴らしい結果を出しました。

GLの経営幹部によると、2014年第4四半期利益の9,376万バーツという数字は、会社設立以来、運用ベースで最も高い四半期利益となりました。これまで最も大きな数字を出した四半期利益は、2012年第4四半期の1億700万バーツですが、これには2,700万バーツ相当の引当金調整が含まれており、この数字を除くと、この四半期の運用純利益は約8,000万バーツとなります。

此下氏は、このGLの財政好転を、タイの経済回復とGLの海外事業(特にカンボジア)からの利益貢献が増加したことに帰するものとしています。「タイではビジネスが戻ってきました。我々の全体ポートフォリオも昨年6月のタナバン社買収によって大幅に増加しています」と此下氏は述べています。昨年第4四半期の9,376万バーツの純利益のうち、7,267万バーツがタイでの事業によるもので、残りの2,109万バーツの大半はGLのカンボジア子会社であるGL Finance(以下GLF)からの利益です。

タイ証券取引所に提出された監査終了前の財務諸表でGLが報告したところによると、利子所得による連結収益は、2013年第4四半期の3億4,959万バーツから36%の増加を示し、2014年第4四半期には4億7,522万バーツに達しました。また、貸倒引当金と資産売却(*3)による損失は、この期間に渡って減少しました。

此下氏は、2014年はじめのタイ経済が困難な時期にあっても、GL社は事業拡大を継続し続け、それによって、営業貸付金総額を2014年終わりに約63億バーツまで成長させ、50%もの成長をもたらしたと主張します。「我々は困難な時期も成長戦略を続けたからこそ、この景気回復時に大きな報酬を得ることになったのです」と此下氏は語ります。「そして、とうとう景気回復のときがやってきました。第4四半期に利益が上昇し、これからもっと大幅な急成長が予測されます。」

此下氏は、特に、カンボジア事業に関して強気の姿勢を出しています。カンボジア国内でGLFは、131のHONDAディーラーと22のKUBOTA農機具ディーラーを含めた、153の営業拠点を設置しています。「カンボジア市場は、非常に低い不良債権引当金に対して、高い利益率を示しています。我々は小規模な事業規模から始めているため、カンボジア市場での莫大な成長の可能性を秘めています」と此下氏は付け加えました。

GLFは現在カンボジアで月間2,000台を扱い、3月の売上は3,000台まで増加、年末までには月間5,000台に到達すると予測されます。これらの数値をタイでの月間売上台数5,000台から6,000台と比較し、カンボジア事業の高い利益率を考慮すると、カンボジア事業の総利益は、来年には競争率が高く利益率が低くなるタイの利益を超えると予想されます。

此下氏は、2013年から2014年の高い引当金と低い利益の時期はもはや過去となり、2014最終四半期で示した利益好転が、今年以降にはより著しく勢いを増していくだろう、と確信しています。

(*1 特に2014年後半に急速に展開した、HONDAならびにKUBOTAにおける営業拠点網などを指す)

(*2 第4四半期の1四半期のみでの利益額)

(*3 ファイナンスを行った債権が支払い遅延を起こした場合、最終的にオートバイを回収してオークションにおいて売却しますが、それを行った場合に発生する損失のこと)

原文については、以下URLをご参照ください。

http://gl.listedcompany.com/news.html/id/449750/group/newsroom_homecorporate

以上